



みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1/TEL 045-628-6100(代)
http://www.yokohama.jrc.or.jp/

●発行：2022年9月 医療連携センター

Contents

- 医療連携センター長就任のご挨拶……P1
- 救命救急センターだより……P2
- 感染症外来について……P3
- 令和4年度腎臓病教室のお知らせ(患者さん向け)……P4
- 患者紹介にかかる連絡先一覧……P4

医療連携センター長就任のご挨拶

医療連携センター長 兼 心臓血管外科部長 伊藤 智



日頃から各地域の先生方には、当院の地域医療連携にご協力を賜り誠にありがとうございます。2022年9月より医療連携センター長を拝命いたしました心臓血管外科の伊藤 智と申します。心・技・知を持ち合わせた医療人を目指して、患者さんにより良い生活を送っていただけるための治療を心がけています。

当院は2009年地域医療支援病院の指定を受け、地域の健康に貢献すべく関連医療機関・福祉機関の皆様のご協力、ご助言をいただきながら連携を深めてまいりました。おかげさまで現在登録医は医科736施設、歯科138施設にまで増え、昨年度紹介件数は19,305件(紹介率平均79.7%)、逆紹介件数は19,261件(逆紹介率平均107.5%)に達しました。

医療連携センターは、地域の医療・福祉機関との連携をさらに充実していくため、**医療連携課・医療社会事業課・入退院支援センター**の3部門から構成され、医師3名、看護師9名、MSW9名、PSW2名、事務職14名、総勢37名のスタッフで業務にあたっています。

医療連携課は地域の医療機関からの紹介患者の外来予約、緊急受診の窓口等の受入業務を担っています。**医療社会事業課**は入院・通院した患者さんが「その人らしい生活」を送れるように院内多職種チームと地域の医療機関と連携し療養支援を行っています。**入退院支援センタ**

ーは患者中心の切れ目のない入退院支援ができるよう、入院予定患者の情報を入院前に把握し、多職種が協働して支援を行っています。

医療連携センターは、地域包括ケアシステムにおける急性期病院として医療の機能分担や専門化を進め、診療所と病院、病院と病院など相互に円滑な連携を図り、当院の有する機能を有効かつ迅速に継続性のある適切な医療を受けることができるようにしたいと考えています。地域に根ざした病院として、地域の人々のための安心な高度専門医療を目指します。

また高齢化がすすみ、ますます医療・福祉環境が厳しくなる中で、患者さんが地域でその人らしく社会生活や療養生活をおくれるようにするために我々が果たすべき役割はさらに大きくなっていくものと考えます。これからも皆様に気軽にご利用していただけるようなシームレスな医療連携を目指し、地域を支え地域に支えられる病院になるように職員一同頑張っています。当院へのご意見、ご要望は医療連携センターまで遠慮なくお伝えいただけましたら幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



救命救急センターだより

副院長 兼 救命救急センター長 武居 哲洋



みなと赤十字病院救命救急センターだよりをお届けいたします。引き続き変わらぬ医療連携をどうぞよろしくお願いいたします。

1. 救命救急センター概況

本来、救命救急センターの役割は、「重症及び複数診療科領域にわたるすべての重篤な救急患者を常時受け入れること」とされています。しかし、病院前において患者重症度を正確に判断することはきわめて困難であり、初期救急から三次救急までを病院前で識別しようとする我が国の体制により、かえって搬送困難となる事例が少なくないことは救急医療の大きな課題であると考えています。当院では、北米型の救急応需体制を参考に、すべての救急車の要請に応え、院内で重症度を評価し、入院の可否を判断する方式を採用してきました。その結果、年間の救急車受け入れ台数は1万台を超え、全国の救命救急センターでも有数の搬送人員数となっています(図1)。ここ数年は応需率も2%前後で推移しています。

2. 新型コロナウイルス感染症

いわゆる第5波から第7波のピークにおいては、救急車要請数自体が大幅に増加し、搬送困難となる救急患者数がきわめて多くなりました。当院への救急車受け入れ要請も大幅に増加し、コロナ用確保病床の満床等により2021年8月の応需率は過去最大の25.7%となりました。コロナ関連以外の救急車受け入れ要請に対してはほぼ応需することができています。

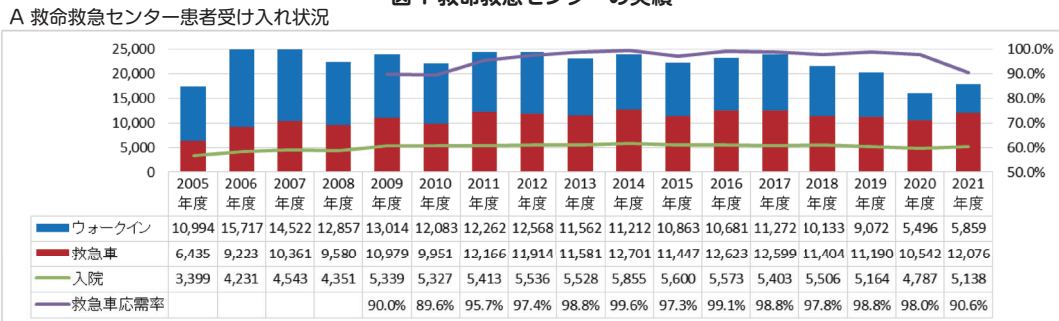
3. 医療の質改善活動

厚労省による救命救急センター充実段階評価においては、これまで常に最高位の評価を得ています。また、2022年6月に日本医療機能評価機構による「救急医療・災害時の医療 Ver.1.0」の外部評価を受審しました。この時に救命救急センターの運営理念と運営方針(表1)を明確にしたことで、これまで以上にスタッフ全員が同じ目標に向かって邁進できると考えています。

4. 救急外来拡張工事

救急医療のさらなる強化を目的に、2022年秋より救急外来の拡張工事が始まります。約2年間救急患者を受け入れながらの工事となるため、何かとご不便、ご迷惑をおかけいたしますがご理解のほど宜しくお願いいたします。

図1 救命救急センターの実績



B 全国の救命救急センターの救急車搬送人員

調査年度	2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度	
	病院名	人員数	病院名	人員数	病院名	人員数	病院名	人員数	病院名	人員数
1	神奈川県 A病院	13,108	神奈川県 A病院	14,019	神奈川県 A病院	14,837	神奈川県 A病院	14,858	神奈川県 A病院	16,321
2	横浜市立みなと赤十字病院	12,623	愛知県 C病院	12,449	愛知県 C病院	12,337	東京都 D病院	10,885	神奈川県 G病院	11,455
3	兵庫県 B病院	11,272	横浜市立みなと赤十字病院	11,855	兵庫県 B病院	12,335	横浜市立みなと赤十字病院	10,598	横浜市立みなと赤十字病院	11,009
4	愛知県 C病院	11,190	兵庫県 B病院	11,664	東京都 D病院	11,580	岐阜県 E病院	10,273	東京都 D病院	10,690
5	東京都 D病院	11,130	東京都 D病院	11,239	横浜市立みなと赤十字病院	11,295	福岡県 F病院	10,215	福岡県 F病院	10,560

「断らない救急」をスローガンに、毎年1万台を超える救急車を受け入れています。
近年は、救急車の応需率は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた2021年を除き98%前後となっています。

表1 救命救急センターの理念と運営方針

(1) 運営理念

重症度に関わらず救急患者を受け入れる「断らない救急」を実践し、地域医療に貢献する。

(2) 運営方針

- 24時間365日の救命救急医療、小児救急医療、周産期救急医療、精神科救急医療など地域の救急ニーズに応える医療を提供します。
- 救急車要請不応需を最小限とし、地域医療におけるセーフティネットとしての役割を果たします。
- 地域の医療機関と連携し、重症患者の高次救急搬送の受け手となることで地域の基幹病院の役割を果たします。
- 災害発生時には、災害拠点病院としての機能を最大限に発揮し、地域住民の安全に貢献します。
- 院内外での救急医療教育活動に積極的に取り組み、人材育成を通じて地域の救急医療の普及に貢献します。

感染症外来について

感染症科部長 兼 感染管理室 室長 渋江 寧



平成 29 年 4 月から当院に着任し、院内の感染症のコンサルテーションを中心とした対応を行っております。1 人診療科ではありますが、ローテーションしてくる初期研修医、時に後期研修医に対して、

診断推論や感染症診療の原則、抗微生物薬に関する指導を行いながら業務にあたっています。

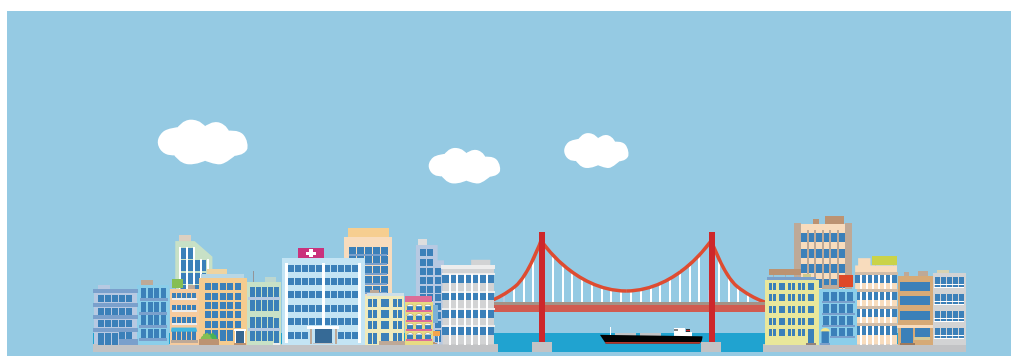
当科の活動の中心は、他科からのコンサルテーション対応であり、当院入院中の感染症を疑う不明な病態の診断やエンピリックセラピーの選択、無菌検体から検出された微生物の解釈、難治性感染症の治療選択などを行っております。

また、平成 29 年 6 月から抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の一員として、広域抗菌薬や当院で届け出対象となっている薬剤（ピペラシリン・タゾバクタム、カルバペネム、静注用レボフロキサシン、バンコマイシン、

リネゾリド、ダブトマイシン）を使用している症例や、血液培養などの無菌検体由来の培養から黄色ブドウ球菌、真菌など治療戦略によってアウトカムが変わる微生物が検出された症例に関して対応を行っております。

令和 4 年 4 月から感染症科としての外来対応枠を設け、HIV 感染症や無症候性を中心とした梅毒の対応を正式に始めました。また、海外渡航者などに向けたワクチン接種対応（A 型肝炎、B 型肝炎、破傷風、狂犬病、髄膜炎菌、腸チフスなど）や帯状疱疹ワクチンの対応なども行っております。該当する方がいらっしゃるようでしたらご紹介をお願いいたします。

症例対応以外では、感染管理室の室長として新型コロナウイルス感染症に対する院内の感染管理の対応を引き続き行い、令和 4 年 4 月からは医療安全推進室の副室長としての業務も加わりましたが、感染症診療・予防に関して引き続き地域医療に貢献していきたいと考えておりますので、今後とも宜しくお願い致します。



● 令和4年度腎臓病教室のお知らせ〔患者さん向け〕

第1回「知って得する腎臓の基本と新しい視点」

日時：令和4年10月18日（火）14時00分～15時30分

場所：横浜市立みなと赤十字病院 大会議室（オンラインも同時開催）

申し込み方法：WEBの専用フォームまたは電話（詳細は病院ホームページをご覧ください。9月12日から申し込み受付予定）

定員：80名 ＊医師・薬剤師・理学療法士が腎臓について講義を行います。＊当院へ通院中の方も参加可能です。

外来診療のご予約

☎045-628-6365

【受付部署】医療連携課

【受付時間】平日 9:00～16:00

紹介状をお持ちの初診患者さんにつきましては、事前に予約をお取りいただけます。

※当日のご予約は承っておりません。

緊急受診のご依頼（救急）

☎045-628-6365

【受付部署】医療連携課（夜間・休日は救命救急センターに転送されます）

【受付時間】24時間365日

医師同士でお話いただき、お受入の可否を判断いたします。

お手数ですが、医師よりご連絡をお願い致します。

医療機関専用ホットライン

ニューロホットライン（脳卒中・神経救急疾患）

☎045-628-6865

循環器ハートライン（循環器疾患）

☎045-628-6867

心臓血管外科ホットライン（大動脈緊急症）

☎090-5560-0584

医療機器の共同利用

CT・MRI・骨密度・マンモグラフィ（利用対象：登録医）

☎045-628-6365 FAX 045-628-6367

【受付部署】医療連携課

【受付時間】平日 9:00～16:00

※2022年9月現在、放射線診断科常勤医の欠員に伴い、当面の間、
以下の通り運用を変更しています。詳細についてはお問い合わせ下さい。

①読影の一時休止（画像CD（画像フィルム）のみを送付）

②費用：当院から紹介元医療機関へ請求（紹介元医療機関はレセプト・患者請求）

RI・PET/CT（※登録医以外からも承ります）

☎045-628-6881 FAX 045-628-6763

【受付部署】放射線科核医学検査室

【受付時間】平日 8:30～17:00

紹介患者さんのお問い合わせ・ご予約は医療連携課で承ります

電話 045-628-6365（直通）／FAX 045-628-6367（直通FAX） 受付時間 平日 8:30～17:00



日本赤十字社

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3丁目12番1号

TEL:045-628-6100（代表） FAX:045-628-6101



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

みなと赤十字

病院ホームページ

検索

